

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
「HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」

令和元年度 分担研究報告書

【研究分担課題名】PrEP（曝露前予防）の海外の先行事例に関する研究
研究分担者名：谷口俊文（千葉大学医学部附属病院・講師）

研究要旨

海外のPrEP先行事例の問題点を調査することにより、日本におけるPrEP導入に関する妥当性、実現可能性を評価し、日本でのPrEP提供体制に関する提言を行う。

A．研究目的

PrEPの海外先行事例の調査により国内におけるPrEPの妥当性、実現可能性を評価する。特に経済・医療制度が比較的近い先進国やPrEP立ち上げ途上のアジア諸国の先行事例を検討することで対象者、有効な提供体制、費用負担に関する具体的な検討を行うことを目的とする。

B．研究方法

現時点で公開された事例の多くは有効率等に関する成功例であり、実際の提供体制等の問題点に関する情報は限られている。また、多くのアジア諸国では導入段階にあり現地で得られる情報は有益である。調査対象国として初年度は、導入段階の問題発掘調査として近隣アジア諸国を、次年度からはPrEPの提供体制の制度的側面も含めた調査として、医療制度・経済規模が類似した英国、豪、米国等を対象とする。対象施設は各国のPrEP研究主導施設および実施施設で、最終年度に日本におけるPrEPの提供体制に関する提言を行う。

C．研究結果

PrEPを臨床試験も含めて導入している国は75ヶ国（2019年10月現在）であり、ガイドラインでPrEPを明記している国は37ヶ国に及ぶ。またPrEPに用いるツルバダ配合錠の後発品の使用は33カ国以上で登録されている。PrEPの海外先行事例調査の対象先として、アジア、欧州、米国、豪州を訪問した。台湾ではdemonstration project

をTaiwan CDC主導で進めており、ツルバダ配合錠の期間限定の無償配布、またその後も継続可能な価格での提供を行っている。またDaily PrEPよりもOn-demand PrEPの提供も行っている。ロンドンとサンフランシスコは看護師、社会福祉士が主導するターゲットが明確で先進的なPrEPの提供を行っていた。バンコクでは行政の強力な支援の下、ツルバダ配合錠の後発薬を自国で開発してPrEPを2014年ころより進めている。VCT内でPrEPを進めているモデルと、医療従事者でない、当事者によるコミュニティセンターで検査とPrEPを提供するKP（Key Population）モデルを進めている。メルボルンやアントワープでは先進国の取り組みとしてPrEPの成功モデルを展開していた。

D．考察

WHO等が提案しているPrEP implementation tool等はどこでも基本骨格は変わらない。日本でのPrEPの提供体制の整備にあたって、医療体制が日本と類似して整っている欧米の事例を今後も検証することが重要である。

E．結論

PrEPは海外で加速的に導入されており、高リスク群をターゲットにすれば有効にHIVを予防できると認識されている。日本においても早期導入およびガイドラインの整備が必要である。

G．研究発表、H．知的財産権の出願・登録状況なし